

Agentic AI勉強会

Agentic AIが変えるITサービス

第2回（全7回） | 2026年04月23日

Q: 「今回の発表資料が何のAI・ツールで作成されたか（Skill.mdやMCPで使っているもの）を知りたい」

このスライドの作り方（一例）

このプレゼンテーション自体が、AIと人間の協働による制作プロセスの実例です。

ChatGPTによる情報収集・素案作成から、Gammaによる整形・コンセプト統一まで、複数のAIツールを組み合わせることで効率的に仕上げています。

ChatGPT

- 情報収集・リサーチ
- 素案・文章作成
- 全体構成の設計
- 再編集・文言調整
- スライド化



→
.ppt 化して
適宜編集後
import

Gamma

<https://gamma.app/ja>

- 整形・コンセプト統一
- ビジュアルデザインの最適化
- 調整・オブジェクト追加編集

→
.ppt 化して
export



- 微調整
- オブジェクト追加編集

① AIツールの組み合わせにより、スライド作成の時間を大幅に短縮しつつ、品質を高めることができます。

UMP-JUST 主催 ハッカソン

『AIエージェントの社会実装』

2026年6月27日（土）・28日（日）開催

AIエージェントの自律的問題解決能力を用いて、日常的な課題、日本の課題、世界が直面する課題など、自由な発想で課題を設定し、ツールによる問題解決を進めていただきます。課題の制約はありません。

審査基準

問題着眼点・着想点

- 何の問題を解いているかが明確で、**着眼点**が新しいこと
- 問題は既知でも、**解き方**が斬新・技術的に優れていること

完成度・動作性

- コンセプトで提示された機能が**実際に動作し有効**である
- AIエージェントの**自律的問題解決能力**が有効に活用されている

前回の最後で...

Agentic AI の社会実装が進むと、 仕事はどう変わるか

AIが担う部分

- 情報収集・データ整理
- 定型処理・ルーティン業務
- 素案・ドラフト作成

人が集中する部分

- 論点設定・問題の定義
- 評価・判断・解釈
- 責任ある意思決定

これから求められる力

- AIに仕事を切り出す力
- 結果を見極める力
- 人間同士の調整・コミュニケーション力



では、

Generative

Agentic

生成 AI / 自律型 AI の社会実装が進むと、ITサービスはどう変化していくか？

従来型のDXとAgentic AIの導入では、システムの役割そのものが根本的に変わります。

人が主役でシステムが脇役だった時代から、AIが実行役として前面に出る時代へ移行しつつあります。

従来型のDX

- 人の仕事をデジタル化・効率化する
- 主役は人、システムは支援役

Agentic AIの導入

- 仕事の一部をAIに任せる
- システムは支援役から自立した**実行役**へ
- 人は監督・判断・例外対応へ寄る

巷では「〇〇は死んだ」と言われることが多くなって来たが...？

- 核心的な問い：何が消え、何が残るか。前提が変わる中で、どのITサービスが生き残るのか。



導入

The Buggles : "Video Killed the Radio Star" (邦題：ラジオ・スターの悲劇)

新しいメディアが古いメディアのルールを書き換える、という比喻

1979年発表のこの象徴的な楽曲は、1981年8月1日に放送開始したMTVで最初に流れたミュージックビデオとして有名です。かつてラジオ番組で人気を博したスター歌手たちが、テレビやビデオの出現により活躍の場を奪われるという内容の歌詞が、当時の時代の転換を鮮やかに表現しています。

"Video killed the radio star
In my mind and in my car
We can't rewind, we've gone too far"

① この構図は、いまの生成AIにも重なります。

radio star は死んだのか？

死んではいない。役割が変わった。

存在ではなく、勝ち方の条件が変わった

MTVは「良く聴こえる」だけでなく「良く見える」を要求しました。音だけではなく、映像も価値の条件になったのです。

旧条件 → 新条件

旧：音だけで成立

→ 新：音＋映像＋キャラクターで成立

新技術が変えるもの

新技術は「存在」より「勝ち方」を変える。これはITサービスにも直接当てはまる教訓です。

video さえ相対化された

主役はさらに streaming / platforms へ移った

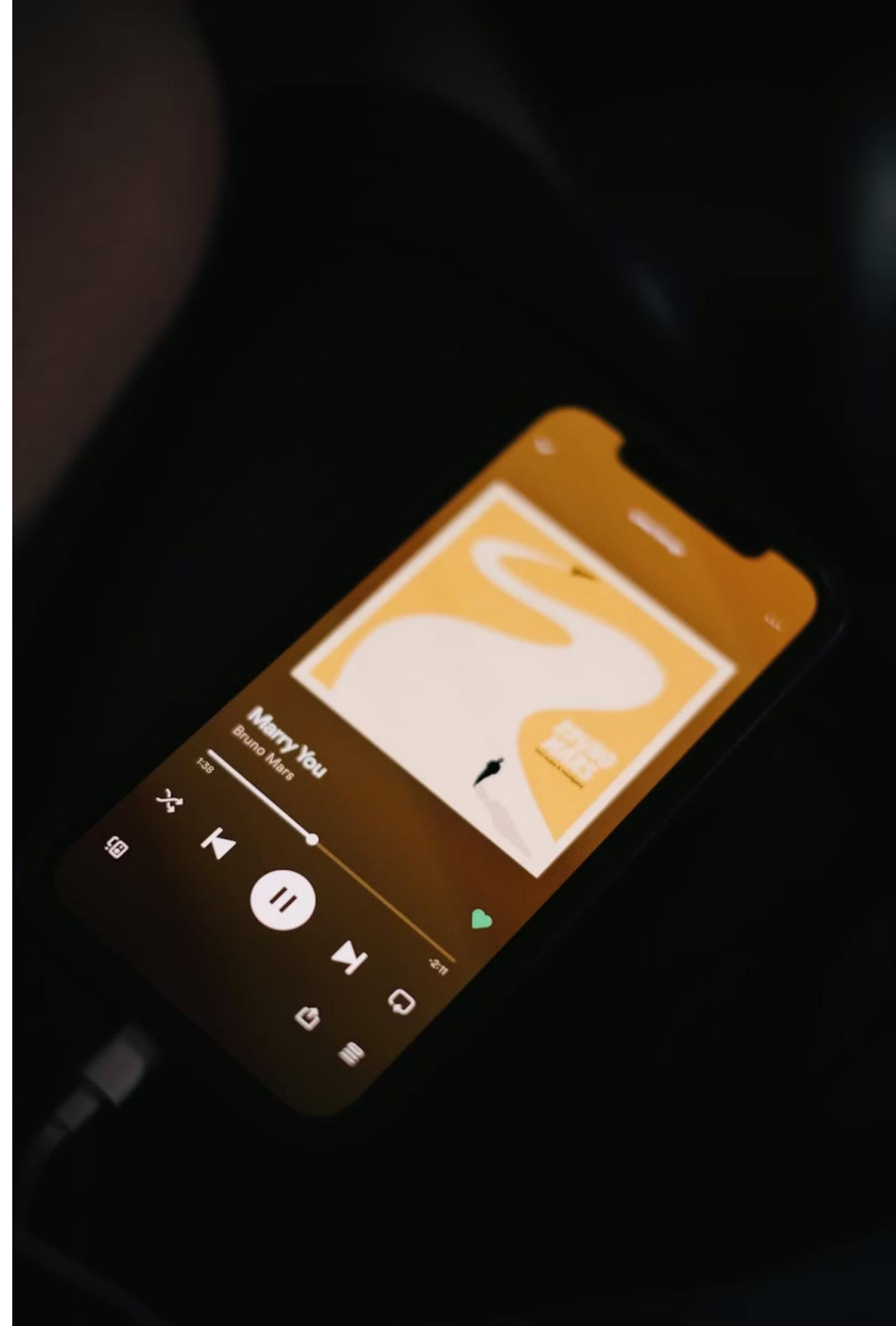
MTVの終焉

2025年末にMTVの複数音楽チャンネルが終了。
かつての「革新者」が時代に取り残された。

ストリーミングの支配

米国の音楽収益は2025年に82%がストリーミング由来。
videoの次に、platformsが主役に。

⚠ ITサービスの世界でも、生成AIの台頭で同じ構図が展開されている。
今日の革新者が明日の旧世代になりうる。



転換点

生成AIはいつ本格化したか

2022年末～2023年が転換点

2022年11月30日

1

ChatGPT 公開。瞬く間に世界中で話題となり、AIへの関心が爆発的に拡大。

2

2023年3月14日

GPT-4 公開。マルチモーダル対応・推論能力の飛躍的向上により、実務利用が現実のものに。

3

実務への転換

「面白いAI」から「実務を変えるAI」へ。
エンジニアだけでなく、ビジネス全体が無視できない存在へ。

転換点

"〇〇の死" が語られ始めた



Stack Overflow の死

開発者がAIに直接質問するようになり、従来のQ&Aプラットフォームへの流入が激減。



Chegg の死

学生向け有料学習支援サービスが、無料で即答するAIの台頭により価値を失いつつある。



Google検索の死、その先の検索流入依存モデルの死

AI Overviewsが答えを返すことで、クリックして元サイトへ流入する導線が弱体化する。

変化の実例

Stack Overflow と Chegg

崩れたのは「答えを取りに行く」という前提

Stack Overflow

開発者向けQ&Aプラットフォーム

- 以前：検索して過去Q&Aへ辿り着く
- 現在：まずAIに直接聞く

月間訪問者数は大幅に減少。レイオフも実施。

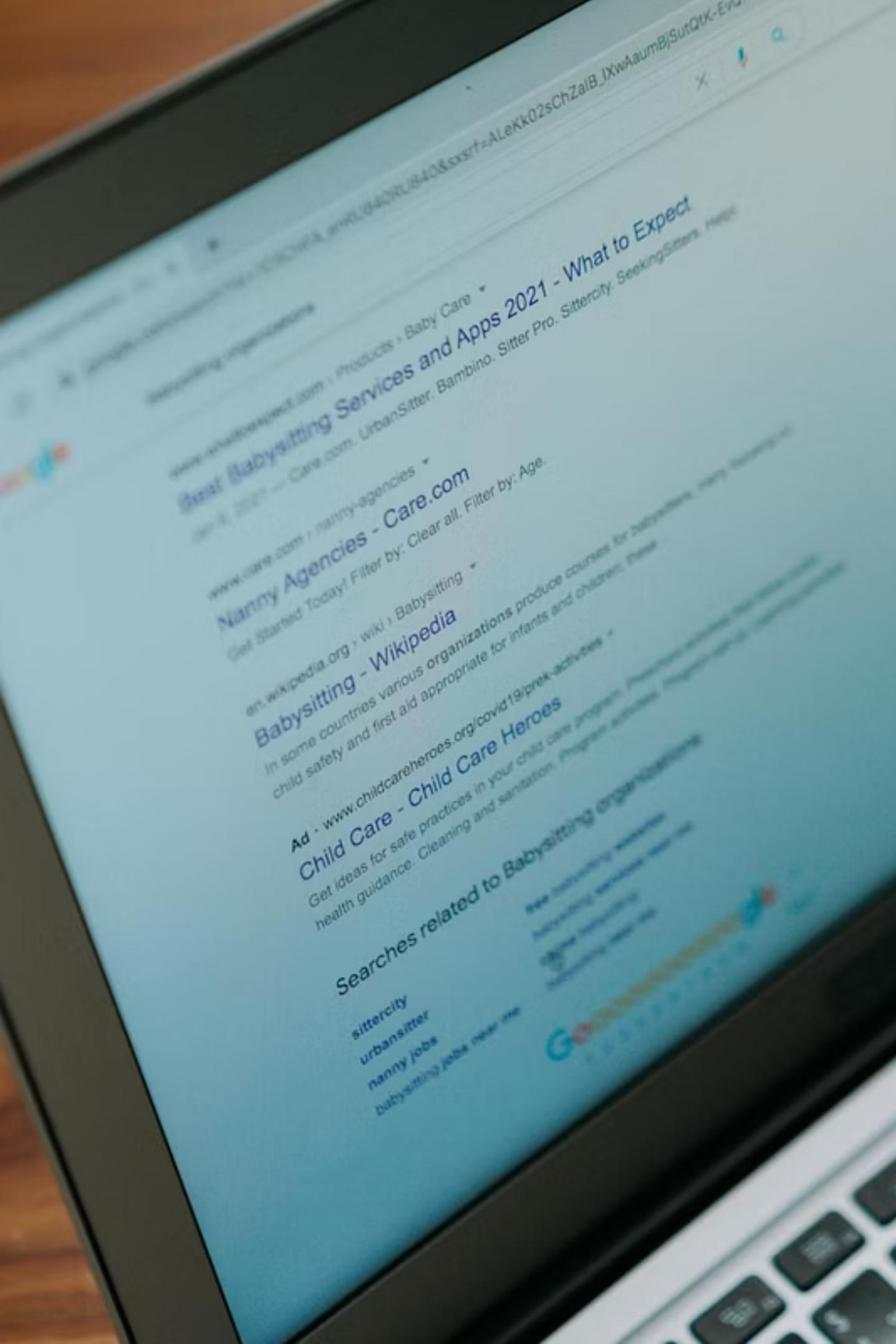
Chegg

学生向け学習支援サービス

- 以前：有料で解説・宿題支援を受ける
- 現在：まずAIに聞く

株価は大幅に下落。ビジネスモデルの根本的な見直しを迫られている。

⚠️ 共通点は「情報や答えを人間が検索・購入する」という前提が崩れたこと。



変化の実例

Google検索の死とは何か

検索そのものより、検索流入依存モデルが危ない

1 流入導線の弱体化

検索 → クリック → 元サイト流入、という従来の導線が弱くなります。ユーザーはページを開かずに答えを得てしまいます。

2 AI Overviews の台頭

Googleが検索結果の上でAIが要約した答えを返すため、ユーザーが外部サイトを訪問する必要性が下がります。

3 苦しくなるモデル

検索流入依存モデル＝検索流入に広告や課金の導線を強く依存していたメディア、ブログ、情報サイト、比較サービスなどが特に脆弱になります。

「SaaSの死」は本当か？

発端：2024年12月

マイクロソフトCEO サティア・ナデラ氏がPodcastで "**SaaS is dead**" と発言。
この言説が広く拡散。

業界の反論

2026年2月、Anthropicの新機能でソフトウェア株が急落。
しかしOracleやSalesforceは
「AIは自社を殺すのではなく、強化するもの」と反論。

IDCの結論

SaaSは死んでいない。ただ変容しつつある。死にかけているのは、人が画面を操作することを前提にした従来型SaaSの前提です。

① AIが何でも置き換えるという考えは早計です。
SaaSは変容しながらも進化を続けています。

整理

死ぬSaaS / 生き残るSaaS

分かれ目は、データと業務への深さ

⚠️ 死にやすいSaaS

汎用機能を並べただけで、差別化がない

標準化データしか持たず、自社固有性がない

人が画面を触らないと価値が出ない設計

UI中心・ユーザーライセンス数中心・汎用データ中心
という従来SaaSの前提の死

✅ 生き残るSaaS

vertical / domain-specific

業界特化で業務が深く、
代替が難しい

unique, proprietary data

自社固有データを保有・
活用できる

記録の正本・実行の本流に入っている

「MCPの死」

MCP (Model Context Protocol) はAIと外部ツールをつなぐオープン標準として注目を集める。

「MCP is dead. Long live the CLI (MCPは死んだ。CLIよ永遠なれ)」という発言(2026.2)で議論が拡大したが、実態はより細かい使い分けの時代への移行。

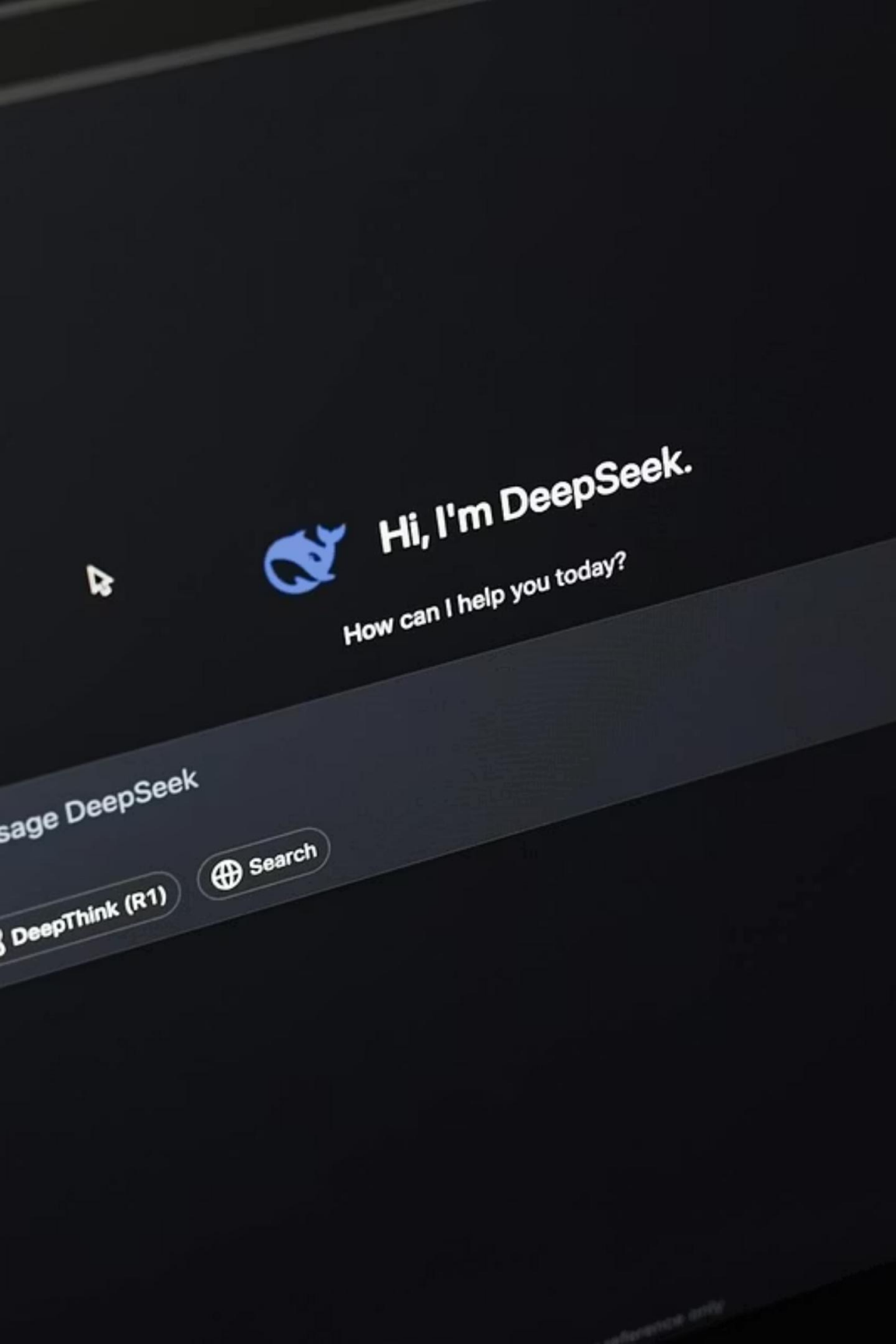
CLIや既存APIが使われる場面

“LLMはすでにCLIの使い方を知っている”という事実から、CLIや既存APIで十分なシンプルな操作には、そちらを選ぶべき。

MCPが残る場面

- 厳格な権限境界・監査が必要
- マルチツール接続の統制
- エンタープライズガバナンス要件

☑ MCPの終わりではなく、**MCP万能論の終わり**。CLI / API / MCP の適切な使い分けが進む。



本題

Q: 生成AIはITサービスに何を要求するようになったのか

A: "使える"だけでなく、
"任せられる"こと

独自の文脈と自社固有データ

モデルより「何を食べさせるか」で差がつく時代へ

AIが安全に操作しやすいこと

人だけでなくAIにとっても使いやすい設計

評価とガバナンス

ログ・監査・説明可能性・人間確認の仕組み

利用アカウント数ではなく
成果で語れること

「何人が触ったか」より「何件終わらせたか」

proprietary

条件1：独自の文脈と自社固有データ

差が出るのは、モデルそのものより「何を食べさせるか」

汎用モデルの共通化

汎用モデルそのものは今後ますます共通化しやすくなり、基盤モデルだけでは差別化できない時代が来る。

自社固有データの重要性

顧客履歴、契約、請求、業務ログ、判断履歴のような自社固有データが競争力の源泉になる。

文脈の正確な把握

そのデータが誰の情報か / 何の業務に使うか / どの権限で見てよいかまで分かることが重要。機能の多さより、AIに正しい文脈を渡せることが競争力になる。

条件2・3：AIが安全に操作できること / 評価とガバナンス

AIが仕事を進めやすい設計と、任せられる運用が必要

AIにとって操作しやすい設計

- 人だけでなく**AIにとっても操作しやすい設計**が必要
- ツール接続 / API / 実行範囲 / 権限境界 / ワークフローの切れ目を整理する
- 便利なUIだけでなく、**任せても暴走しない設計**が求められる

評価・ガバナンスの仕組み

- 生成AIは確率的なので「動けばよい」では足りない
- ログ / 評価 / 監査 / 説明可能性
- 人間確認の仕組みが必須

⚠️ 「便利なUIがある」と「AIに任せられる」は別物。両方を備えて初めて、Agentic AI時代のITサービスとして機能する。

条件4：利用アカウント数ではなく成果で語れること

価値は「何人が触ったか」ではなく「何件終わらせたか」へ

従来のSaaS評価

何人が使うか（アカウント数・シート数）で価値を説明しやすかった。

Agentic AI時代の評価

1人あたりの処理量や代行範囲が変わるため、**何件終わらせたか / どれだけ時間を減らしたか / 精度を上げたか**で価値を測る。

ソフトウェアの再定義

「使う権利」から「**仕事を終わらせる力**」で評価される方向へ。成果を示せるサービスほど強くなる。

生き残るITサービスの設計

AIの上に便利機能を載せたサービスではなく、
AIが「正しい文脈」で「安全に」実務を終えられる土台を持つサービス



共有業務文脈・固有データ

AIが正しい文脈で動けるよう、自社固有データ・履歴・ルール・権限をAIに渡せることが最重要。System of Recordとの接続が鍵。



実行レイヤー・権限管理

AIが安全に実務を進められるよう、権限境界・状態管理・ワークフローを設計。危険操作の承認や秘密情報管理も先に設計する。



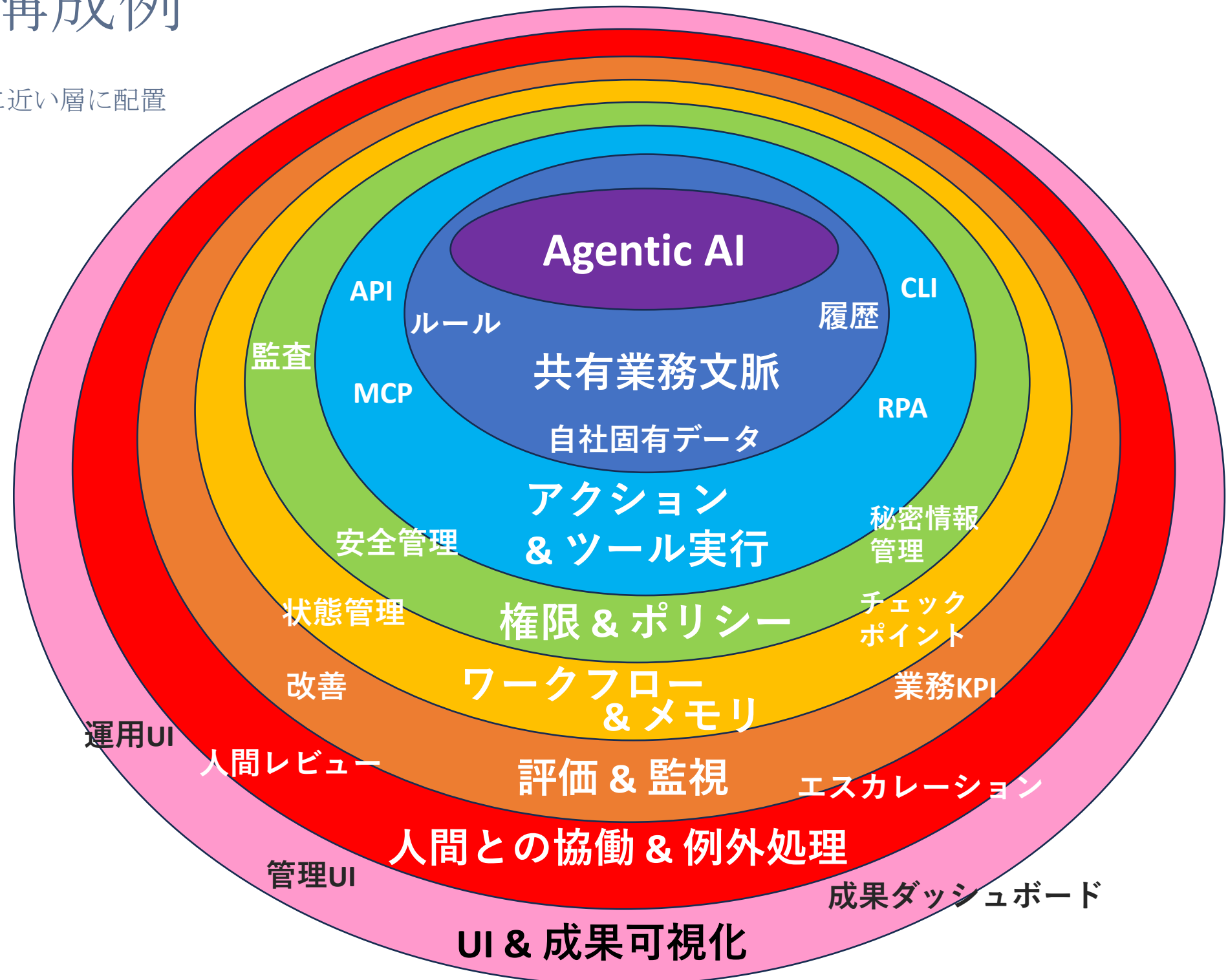
評価・監視・UIは外殻

UIは主役ではなく、設定・監督・例外対応のための外側のレイヤー。成功率・コスト・遅延・失敗理由を継続的に観測して改善する。

System of Record：記録のためのシステムから、
AIが自ら判断して行動するSystem of Action：実行のためのシステムへの転換

生き残るITサービスの構成例

中心にAgentic AIを配置し、重要度が高いものほど中心に近い層に配置
UIは最外周に置かれ、設定・監督・例外対応を担当



生き残るITサービスの構成例

中心にAgentic AIを配置し、重要度が高いものほど中心に近い層に配置
UIは最外周に置かれ、設定・監督・例外対応を担当

共有業務文脈

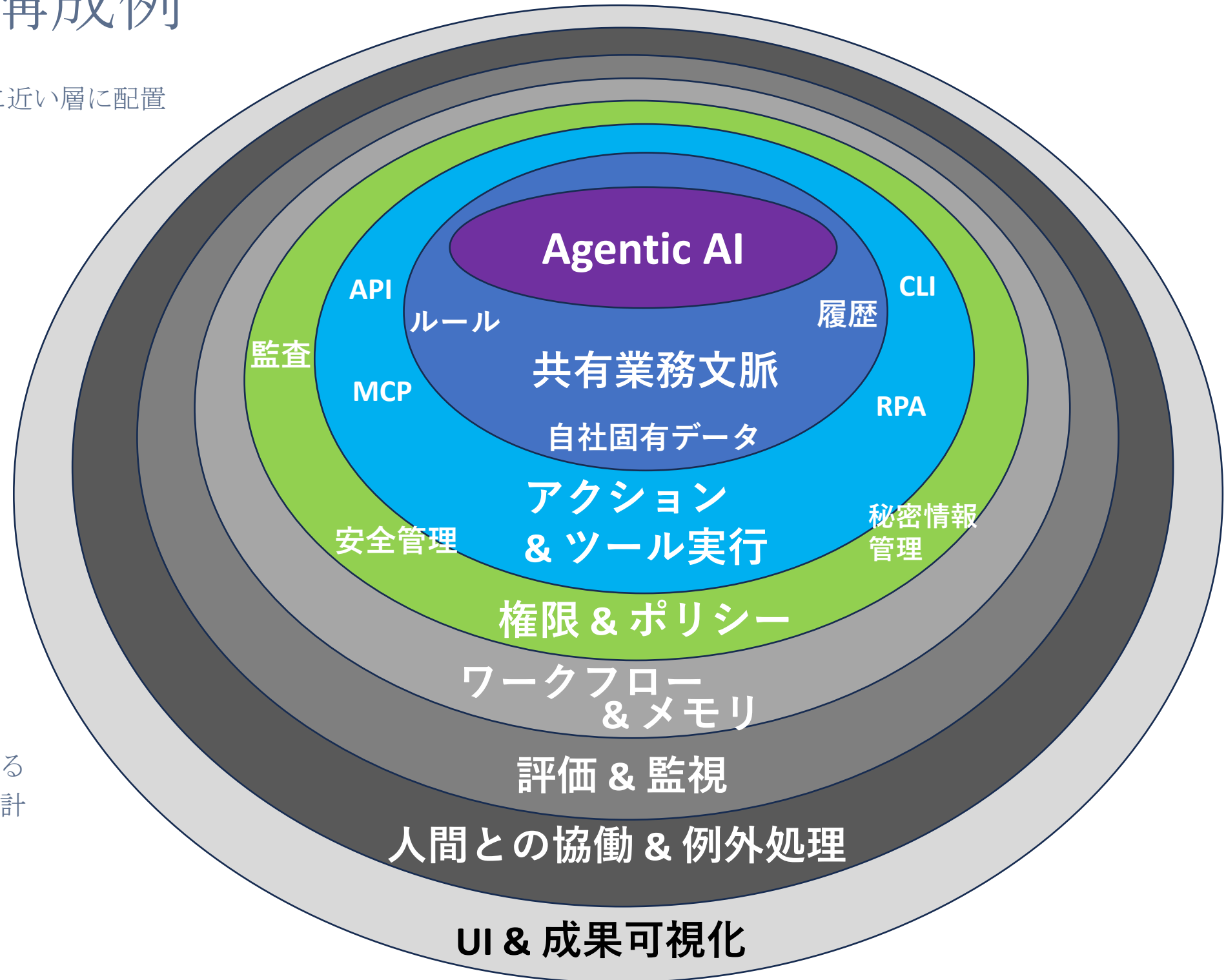
AIを「一般論を話す存在」ではなく、
「その会社の文脈で判断する存在」たらしめる

アクション・ツール実行

AIが実際に仕事を進めるための実行層
AIが呼び出せる“安全な道具”を先に整える

権限ポリシー安全管理

何をやってよくて、何をやってはいけないかを制御する
全部を常時手動承認ではなく、リスクに応じた承認設計



生き残るITサービスの構成例

ワークフローとメモリ

案件の途中状態、作業計画、チェックポイント、引き継ぎ、再開情報を保持する

AIが“作業中の状態”を持てる

評価・監視・改善

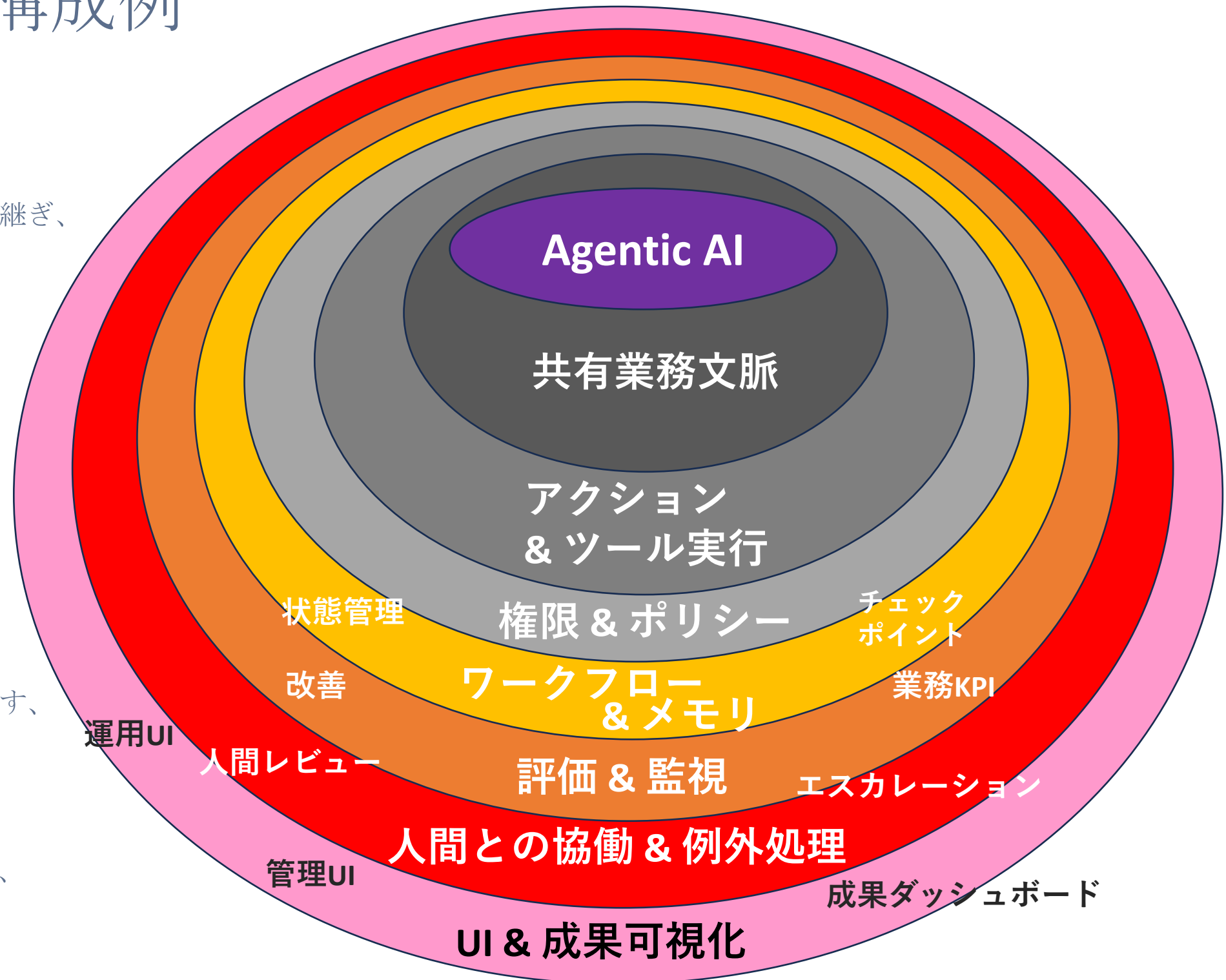
AIサービスとして品質を保って運用するため
どのくらいうまく動いているかを継続的に測り、
改善につなげる

人間との協働と例外処理

サービス品質保証の仕組みの一環としての、人間確認
高リスク操作だけ承認対象にする、例外時だけ人に戻す、
学習用フィードバックを残す

UI・成果可視化

UIは主役ではなく、設定、監督、例外対応、結果確認、
運用改善のための外殻としての位置づけ



レイヤー別に見る機能要件

「何を備えるべきか」を重要度順に並べる

重要度	レイヤー	主要機能
最重要	共有業務文脈	コネクタ / RAG / 構造化・非構造化参照 / 鮮度管理 / 出典表示 / 権限継承
最重要	実行レイヤー	ツールレジストリ / API・MCP・CLI / 読み取りと更新の分離 / dry-run / ロールバック
必須	権限・安全管理	RBAC・ABAC / 承認ルール / 秘密情報管理 / allowlist / 監査ログ / ポリシーエンジン
必須	評価・監視	成功率 / コスト / 遅延 / 失敗分類 / トレース / オフライン評価 / 回帰試験
重要	状態管理・メモリ	タスク分解 / チェックポイント / 途中再開 / 短期・長期メモリ / スケジューラ
重要	人間協働	差分確認 / 高リスク操作のみ承認 / エスカレーション / フィードバック回収
外殻	管理UI・成果可視化	接続先管理 / 権限設定 / 成果ダッシュボード / コスト可視化 / ワークフロー編集

🕒 設計上の示唆： 生き残るサービスは、「AIを載せた画面」ではなく、「AIが安全に仕事を完了できる多層基盤」

事例

日本企業の具体例

自社（＝契約利用顧客自身）の固有データをAI価値に変えている会社

Sansan

名刺、企業情報、営業履歴、請求書、契約書を構造化し、検索・要約・契約活用へ展開

Money Forward

仕訳、元帳、請求、支払などの会計実務データを、AIエージェントが扱える形にし始めている

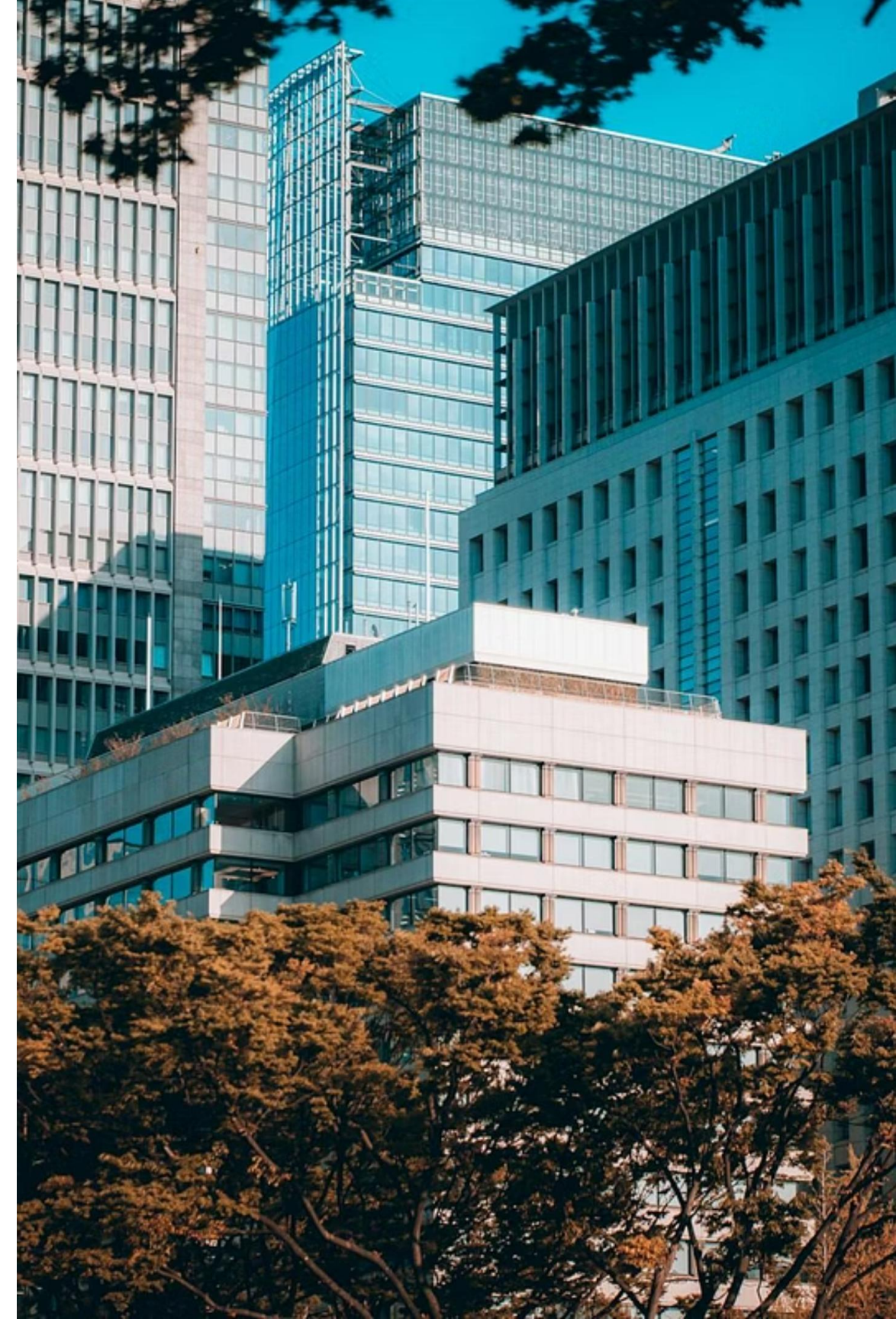
SmartHR

従業員情報、職務経歴、スキル、人事評価を、AI検索や推薦に活用

Recruit / M3

求人・採用履歴のマッチング最適化、医療現場データを業務支援・効率化に接続

☑ 強いのはAIそのものより、AIに食べさせる独自の仕事データ。



まとめ

生成AIが殺しつつあるのは、

→ 一律に消えるわけではない

生成AIは、既存のITサービスをすべて消すわけではありません。

→ 前提依存型サービスが弱くなる

人が探す / 人がクリックする / 人が画面を触る / 人が最初の下書きを作る、
ことを前提にしたサービスは脆弱になります。

→ 強くなる条件


AIに任せられるだけの
文脈・データ・権限・評価・ワークフロー
+
自社固有データ

生成AIが殺しつつあるのは、ITサービスそのものではなく、
ITサービスが売れるための**古い前提**である。


自律型AIの社会実装事例

社会課題の現場で、「どこまで実装が近いか」を見る

医療・行政DX・教育・地域・災害という5つの分野にわたる7つの事例を、社会実装に近い順に整理します。

 医療


NEC 医療文書作成支援

 行政DX

大阪市×日立 通勤届AI / デジタル庁 源内

 教育

datagusto fukutan / NII エコシステム

 地域

JRC×熱海市 観光DX

 災害

PLATEAU 建物被害推定

見方：2つの評価軸

「近さ」と「自律性」を分けて見る

📍 社会実装の近さ

- 本番運用・商用提供に入っているか
- 対象業務が明確で、導入主体が決まっているか
- 効果指標・横展開の見通しがあるか

🤖 自律性

- 現場データを読み、状態を把握できるか
- 複数ステップの処理や推薦まで進めるか
- 人の確認を残しつつ、実務を前に進められるか

事例	実装の近さ	自律性	分野
NEC 医療文書作成支援	5/5	3/5	医療
大阪市×日立 通勤届AI	4.5/5	4/5	行政DX
デジタル庁 源内	4/5	2.5/5	行政DX
datagusto fukutan	3.5/5	4/5	教育
JRC×熱海市 観光DX	3.5/5	3.5/5	地域
PLATEAU 建物被害推定	3/5	4/5	災害
NII 教育支援エコシステム	2/5	1.5/5	教育

NEC 「MegaOak/iS AIメディカルアシスト」

何をしているか

電子カルテに記載された診療情報をもとに、紹介状・退院サマリーの文章案を自動生成する商用サービスです。

現状：商用提供済み

2024年4月から販売開始。事前実証では文書作成時間の平均**47%削減**、引用元カルテも関連表示。

どこが「自律型AI」か

カルテ読解 → 情報整理 → 文書生成まで、現場の定型業務を大幅に自動化。医師はゼロから書くのではなく、AIの下書きを確認・修正する役割へ移ります。

(参考記事) [NEC、生成AIを搭載した電子カルテシステム「MegaOak/iS」の販売を開始～医療文書の作成を支援し、医師の働き方改革に貢献～](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

★★★★★ 5/5

自律性

★★★ 3/5

社会実装上の意味

PoCではなく商用提供済み。医師不足・働き方改革に直結。自律型AIの入り口は「診療」より先に「**文書化**」にある。

大阪市 × 日立 「通勤届AIエージェント」

何をしているか

大阪市の通勤届（年間約1万件）の申請・審査業務にAIエージェントを適用した実証です。

現状：現場実証 → 全庁展開検討

申請案内、入力ナビゲート、内容チェック、認定可否・払戻計算支援を検証。
最大約**40%**の業務時間短縮可能性を確認し、2026年度以降の全庁導入を検討中。

どこが「自律型AI」か

案内 → 入力補助 → 照合 → 判定支援 → 計算支援まで、複数ステップを一続きの業務として扱う申請者・審査者双方に入り込む設計。

(参考記事) [大阪市と日立、AIエージェントによる自治体業務の効率化と住民サービスの向上に向け実証](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

★★★★☆ 4.5/5

自律性

★★★★ 4/5

社会実装上の意味

行政の定型事務は、エージェント適用余地が大きい。「住民向け窓口」だけでなく「庁内業務」でもAI化が進む。効果指標が明確で、本番導入に近い実証。

デジタル庁「ガバメントAI『源内』」

何をしているか

政府職員が安全に生成AIを使うための共通基盤です。個別業務専用ではなく、政府全体でAI利用を定着させるための基盤を担います。

現状：政府全体の大規模実証

2026年5月～2027年3月、全府省庁の約**18万人**を対象に大規模実証を開始。今後はAIアプリ開発強化・エージェントAI導入・政府共通データセット拡充を推進。

どこが「自律型AI」か

将来のエージェントAI導入を見据えた「前提条件づくり」を担うポジション。共通基盤の上に個別業務のエージェント化が乗る設計。

[ガバメントAI（源内）トップページ（デジタル庁）](#)

(参考記事) [全府省庁の約18万人の政府職員を対象としたガバメントAI（源内）の大規模実証を開始します](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

★★★★ 4/5

自律性

★★★ 2.5/5

社会実装上の意味

社会実装のインパクトは非常に大きい。導入主体・ガバナンス・共通データ整備が鍵。

datagusto 「fukutan」

何をしているか

"副担任"のように学校現場を支える教育AIエージェント。作問 → 配布 → 学習支援 → 可視化 → 個別最適化のサイクルで授業改善を支援します。

現状：学校現場での実証導入

2025年9月からICU高校で実証開始。2026年2月までに約**100名**が数学・国語などで利用。

どこが「自律型AI」か

学習ログを見て生徒ごとの理解状況に応じて支援を変える。教員に対しても授業設計・課題作成・振り返りの支援を行う二面性が特徴。

(参考記事) [AIが学校の副担任に — 教育AIエージェント「fukutan」のβ版をリリース。ICU高校とともに実証実験中](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

★★★★☆ 3.5/5

自律性

★★★★ 4/5

社会実装上の意味

教員不足・個別最適化の難しさへの具体的な解。「質問応答AI」ではなく、**授業運営の補助者**に近い実装。

じゃらんリサーチセンター × 熱海市 「観光DX実証」

何をしているか

熱海市役所・熱海観光局と協業し、生成AIを活用した観光DX実証を実施。
AIダッシュボード・AI検知アラート・AIレポート作成ツールで観光運営を支援。

現状：自治体・DMOでの検証

Google検索表示回数**15.3倍**、米国・台湾からの来訪者数は前年比**約2倍**。
レポート作成は**30分の1**、案内所工数は**約3割削減**。

どこが「自律型AI」か

観光データの分析 → 変化検知 → 多言語発信 → 現場レポート作成まで継続的に支援する、地域・旅行者・観光事業者をつなぐ運営補助型エージェント。

(参考記事) [インバウンド強化に取り組む観光地で来訪者数が前年比約2倍 じゃらんリサーチセンターと熱海市、AIエージェントで観光DXを実証](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

★★★★☆ 3.5/5

自律性

★★★★☆ 3.5/5

社会実装上の意味

人手不足の観光地でも成果創出が可能。データ分析から現場運営まで、横展開しやすい観光DXの具体例。

PLATEAU「建物被害等推定システム」

何をしているか

3D都市モデルとSAR衛星データを組み合わせ、地震後の建物被害を物件単位で推定します。実施事業者はWHERE、協力はスペースシフトと金沢市。2026年1月に石川県金沢市で実施。

現状：ユースケース開発・実証

災害被害エリアの早期把握や、オーナー・自治体の初動判断支援を狙います。人手では追いつかない**初動の広域把握**を機械側で前処理します。

どこが「自律型AI」か

衛星データ取得 → 都市モデルとの照合 → 被害推定 → 優先確認対象の絞り込みまでを先回りして実施。

(参考記事) [人工衛星データを活用した大規模震災地域の建物被害等推定システム](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

☆☆☆ 3/5

自律性

☆☆☆☆ 4/5

社会実装上の意味

初動の数時間～数日を短縮できる可能性が大きい。防災では「人の代替」より先に「広域把握の自動化」が価値になる。

NII「教育支援エコシステム」

何をしているか

内閣府BRIDGE事業「教育向けAIモデルの構築と人と協調するエージェントAI教育支援エコシステムの開発」の中核機関。NIIが京都大学・大阪教育大学と協力し開発中。

現状：研究開発・制度整備

現時点では製品というより**研究開発・制度整備・基盤構築**のフェーズ。学習者支援・教員支援・授業改善・学校運営支援まで含むエージェント化を明示しています。

どこが「自律型AI」か

今すぐの実装ではなく、将来の教育AIの枠組みを設計する取り組み。「人と協調する」ことを前提としている点が特徴。

(参考記事) [国立情報学研究所が内閣府のBRIDGE事業「教育向けAIモデルの構築と人と協調するエージェントAI教育支援エコシステムの開発」の中核実施機関に](#)

評価ポイント

社会実装の近さ

☆☆ 2/5

自律性

☆☆ 1.5/5

社会実装上の意味

教育分野では制度・研究・基盤整備が先行する。現場実装はまだ先だが、方向性を示す案件として重要。

UMP-JUST 主催 ハッカソン

『AIエージェントの社会実装』

2026年6月27日（土）・28日（日）開催

AIエージェントの自律的問題解決能力を用いて、日常的な課題、日本の課題、世界が直面する課題など、自由な発想で課題を設定し、ツールによる問題解決を進めていただきます。課題の制約はありません。

審査基準

問題着眼点・着想点

- 何の問題を解いているかが明確で、**着眼点**が新しいこと
- 問題は既知でも、**解き方**が斬新・技術的に優れていること

完成度・動作性

- コンセプトで提示された機能が**実際に動作し有効**である
- AIエージェントの**自律的問題解決能力**が有効に活用されている

UMP-JUST 主催 ハッカソン

【課題例 1】暗黙知を“AI 実装可能な構造へ変換する自律型ナレッジ継承エージェント”

(アイデア)

多くの企業では、熟練者の経験や判断基準といった「匠の技」が暗黙知のまま属人化しており、データとして十分に整理されていない。その結果、AI活用や業務効率化が進みにくいという課題が存在する。

企業における非構造データ（熟練者インタビュー記録、業務マニュアル、議事録、Excelデータ等）を入力として、AIエージェントが自律的に非構造データから業務に必要な意思決定を行うことや、部門内におけるOJTを計画実施することを可能にする。研究活動においても、過去論文、実験計画、研究ノート等の過去の研究に基づいた非構造データから、新規性・有用性のある領域探索をするなどの活用を可能とする。

(AIエージェントが行うこと)

- 自律的に非構造データを認識し、分析手法を選択する
- データ間のつながりから目標へのアプローチを発見する
- データ分析に活用可能なRAG等のデータ構造（スキーマ・ルール・知識グラフ等）を自律的に設計
- 活用可能なAIユースケースを提示（意思決定支援、教育支援等）

(KPI)

- 非構造データからの検索精度の向上（重複データの削除率、メタデータ付与率）
- RAG正答率

UMP-JUST 主催 ハッカソン

【課題例 2】顧客の課題解決策提案を支援するコンサルティング支援エージェント

(アイデア)

コンサルタントや企画立案者、研究者等が業界調査や顧客の現状分析に時間を取られて、戦略立案に時間を割けない課題を解消し、コンサルタントの「作業」を代行し「思考と意思決定」に集中できる状態をつくることを目的とする。対象顧客のIR情報分析、業界データにおける提携的な分析から、指定された戦略テーマに沿った思考フレームワークを提示するワークスペースの構築。研究活動においても研究テーマにおける過去論文調査や市場における影響分析、有用性調査等に活用できる。

(AI エージェントが行うこと)

- 情報検索：対象顧客、業界における信頼性の高い情報を検索し情報を整備する（引用元を明記）
- 顧客分析：与えられた戦略テーマに沿って分析フレームワーク（3C/SWOT/PEST等）自律的に選択
- 市場分析：市場・競合トレンドの構造化と資料化
- 仮説立案：思考テーマに基づいてユーザーの仮説に関する多角的フィードバック
- 戦略の提示とリスク評価

(KPI)

- 調査・分析・資料作成時間の短縮